

チーム基盤型学習（TBL：Team-Based Learning）の講義および演習への活用—導入整備およびマニュアル作成—

保健福祉学部 飯田忠行、小野武也、
田中聡、川原田淳、細川淳嗣

1.概要

文科省は、大学が教育課程を通じて着実に人材を養成していくための方策として、成績評価基準に基づく客観的な成績評価を行うことが重要としている。具体的には、学生の学修意欲を引き出し向上させるために、ディスカッションやディベートなど双方向性のある講義や演習、実験、実習あるいは実技等を中心とした主体的な学修を促す質の高い大学教育を積極的に推進することが求められている。様々な能動的学修を促す教授・学習法がある中で、チーム基盤型学習（TBL）は、双方向型講義法から問題／プロジェクト基盤型学習法（PBL）に亘る、きわめて広範囲な授業形態を包含する（浦上.2007）。我々は昨年度のFD事業の予算を頂き、その一部の成果としてTBLの評価（iRATとピア評価）とGPAとの関連を示し、GPAおよびTBL評価ともに学修指導に役立てることを示した。そして、九州大学三木教授をお呼びして、TBLの概略の講演を行った。システムはピア評価以外の部分の構築を終え、学修者評価も高かった。そして、講演後には、具体的にどのように導入したらよいかという声が多かった。

そこで、TBLを用いた講義導入に具体的対策、また簡単に導入できるマニュアルの作成を行い、より学内に広める事業展開を行った。具体的には、moodleを用いたTBLシステムのマニュアルを作成し、マニュアルに沿った説明会をエデュプレイ北川周子先生をお招きして実施した。

2.システム構築（ピア評価およびマニュアル）

オープンソースであるmoodleを用いたTBLのe-Learningシステムを外部サーバーを用いて導入した。本システムでは、iRATに必要なスクラッチカードの購入は必要なく、また、自宅のPCやスマホ・タブレットから本システムにログインし、学生同士が掲示板形式でディスカッションを行えるようにしている。また、教員への質問ボタンを作成し、質問内容が教員のメールアドレスに送られるシステムを採用している。教員は、内容にしたがって、システムに書き込みを行い、学生へのフィードバックを行える。そして、ピア評価システムは、評価者の入力画面および自らがどのような評価をされたか受けた評価の画面を構築し、受けた画面では匿名化を行った（図1）。

ピア評価(ピア評価)

(1)あなたの提出状況 (2)他の学生が提出した課題をピア評価する (3)あなたが受けた評価

他のグループメンバーが提出した課題を評点して下さい。提出者の名前をクリックすると評点画面が表示されます。

持ち点 : 0/100

あなたは残り0点を割り振ることが出来ます。

提出者	評点	すばらしい点	改善する とよい点
山田太郎	5	この課題は、非常に興味深い内容で、特にデータの分析が素晴らしいです。また、結論が明確で、今後の研究に役立つと思います。	
佐藤花子	4	この課題は、非常に興味深い内容で、特にデータの分析が素晴らしいです。また、結論が明確で、今後の研究に役立つと思います。	
鈴木一郎	3	この課題は、非常に興味深い内容で、特にデータの分析が素晴らしいです。また、結論が明確で、今後の研究に役立つと思います。	
田中みゆ	2	この課題は、非常に興味深い内容で、特にデータの分析が素晴らしいです。また、結論が明確で、今後の研究に役立つと思います。	

a.入力画面

ピア評価(ピア評価)

(1)あなたの提出状況 (2)他の学生が提出した課題をピア評価する (3)あなたが受けた評価

あなたが受けた評価

評価者の実名は表示されません。

評価者(実名は表示されません)	評点	すばらしい点	改善する とよい点
評価者1	5	この課題は、非常に興味深い内容で、特にデータの分析が素晴らしいです。また、結論が明確で、今後の研究に役立つと思います。	
評価者1	4	この課題は、非常に興味深い内容で、特にデータの分析が素晴らしいです。また、結論が明確で、今後の研究に役立つと思います。	
評価者1	3	この課題は、非常に興味深い内容で、特にデータの分析が素晴らしいです。また、結論が明確で、今後の研究に役立つと思います。	
評価者1	2	この課題は、非常に興味深い内容で、特にデータの分析が素晴らしいです。また、結論が明確で、今後の研究に役立つと思います。	

評価サマリー

平均点	3.5
最高点	5

b.受けた評価画面

図1 moodle を用いたピア評価システム

2. moodle を用いた TBL の e-Learning システムのマニュアル作成

TBL は、主に事前学習、「iRAT」、「tRAT」、「応用課題」、「ピア評価」の流れで行うが、それぞれのセクションは様々な講義に応用可能である。「iRAT」、「tRAT」は、国家試験のような4～5者択一の問題で回答を得ることができたため、講義後の確認テストのような形でも利用できる。「応用課題」は、設問に対する記述にて回答を得るため、講義中の課題に対する考えを述べることができる。また、ピア評価はグループの貢献度の評価であるため、グループ課題後の各グループにおいて個人のチーム貢献度の評価が行える。したがって、TBL のマニュアルを作成することで、様々な講義体

に対応可能である。昨年度、マニュアルの作成し、説明会を実施した（図2）。説明会ではマニュアルを配布し、情報処理演習室にて演習形式の説明会を行った。本マニュアルを活用し、より良い授業のデザインに役立てていくと同時に、導入したいという教員からの相談にも積極的に応じ、具体的な助言を行いたいと考える。

Moodle で実施する T B L 設定方法

Moodle で TBL を設定する

TBL を moodle で実施するために準備をします。

1. 多肢選択肢問題作成 (iRAT,tRAT)
2. 応用問題作成(自由記載)
3. アピール用紙配布
4. グラフクロウの起動
5. ピア評価

1. 多肢選択問題を作成する

iRAT、tRAT で使用する多肢選択問題を作成します。

1. ログインすると、自身が登録されているコースが確認できます。



図2 moodle を用いたマニュアル